

<マニュアル訂正連絡票>

FUJITSU Software ASP システムメッセージ集 V30

[J2K0-6150-01]

2022年3月31日発行

修正箇所 (章節項) : S5629 の注意 「発信元小区分が SYS, FTP または RMN の場合」の補足情報

旧記事

分類1	分類2	詳細1	詳細2	意味	処置
XLOGIN	MACRO	RP065	—	誤ったプロフィールで接続を行ったため.	正しいプロフィールで接続を行う.

新記事

分類1	分類2	詳細1	詳細2	意味	処置
XLOGIN	MACRO	RP065 RP153	—	誤ったプロフィールで接続を行ったため.	正しいプロフィールで接続を行う.

2021年9月28日発行

修正箇所 (章節項) : 「1.12 S1200~S1299 のメッセージ」の「S1276」 「原因」部および「利用者処置」部

旧記事

- 原因 :
- a. RDB がシステムに組み込まれていない.
 - b. システム共通変数 (@RDBUFN) の値がゼロになっている.
 - c. SWA/SWA2 が不足しているためRDB の制御域が獲得できない.
 - d. RCOVRDM コマンドが実行中である.
 - e. RDB 共用バッファが獲得できない.
- 利用者処置 :
- a. XSIPMENU で契約情報を確認する.
 - b. REFSYS コマンドでシステム共通変数 (@RDBUFN) にRDB 共用バッファ数を設定した後IMPL する. (『RDB 説明書(リレーショナルデータベース管理システム)』参照)
 - c. レベルアップインストールにより, SWA/SWA2 を拡大する.
 - d. RCOVRDM コマンド終了後, 再度実行する.
 - e. REFSYS コマンドで RCB サイズを確認して RCB サイズを決定する共通変数の値を再度設定後, IMPL する.

新記事

- 原因 :
- a. RDB がシステムに組み込まれていない.
 - b. システム共通変数 (@RDBUFN) の値がゼロになっている.
 - c. SWA/SWA2 が不足しているためRDB の制御域が獲得できない.
 - d. RCOVRDM コマンドが実行中である.
 - e. RDB 共用バッファが獲得できない.
 - f. RCB が正しく獲得されていないため, RDB 共用バッファが獲得できない.
- 利用者処置 :
- a. XSIPMENU で契約情報を確認する.
 - b. REFSYS コマンドでシステム共通変数 (@RDBUFN) にRDB 共用バッファ数を設定した後IMPL する. (『RDB 説明書(リレーショナルデータベース管理システム)』参照)
 - c. レベルアップインストールにより, SWA/SWA2 を拡大する.
 - d. RCOVRDM コマンド終了後, 再度実行する.

e. REFSYS コマンドで RCB サイズを確認して RCB サイズを決定する共通変数の値を再度設定後、IMPL する。

f. CHGCMVAR コマンドまたはREFSYS コマンドで、システム共通変数 (@RDBUFN) に一度0を設定後、正しい値を再設定し、IMPL を行う。

修正箇所 (章節項) : 「2.2 \$5100~\$5199 のメッセージ」の「\$5141」 「原因」部および「利用者処置」部

旧記事

- 原因 :
1. RDB がシステムに組み込まれていない。
 2. システム共通変数 (@RDBUFN) の値がゼロになっている。
 3. SWA/SWA2 が不足しているためRDB の制御域が獲得できない。

- 利用者処置 :
1. XSIPMENU で契約情報を確認する。
 2. REFSYS コマンドでシステム共通変数 (@RDBUFN) にRDB 共用バッファ数を設定した後IMPL する。 (『RDB 説明書(リレーショナルデータベース管理システム)』参照)
 3. レベルアップインストールにより、SWA/SWA2 を拡大する。

新記事

- 原因 :
1. RDB がシステムに組み込まれていない。
 2. システム共通変数 (@RDBUFN) の値がゼロになっている。
 3. SWA/SWA2 が不足しているためRDB の制御域が獲得できない。
 4. RCB が正しく獲得されていないため、RDB 共用バッファが獲得できない。

- 利用者処置 :
1. XSIPMENU で契約情報を確認する。
 2. REFSYS コマンドでシステム共通変数 (@RDBUFN) にRDB 共用バッファ数を設定した後IMPL する。 (『RDB 説明書(リレーショナルデータベース管理システム)』参照)
 3. レベルアップインストールにより、SWA/SWA2 を拡大する。
 4. CHGCMVAR コマンドまたはREFSYS コマンドで、システム共通変数 (@RDBUFN) に一度0を設定後、正しい値を再設定し、IMPL を行う。

修正箇所 (章節項) : 「2.8 \$5700~\$5799 のメッセージ」の「\$5767」 「原因」部、「利用者処置」部および「注意」部

旧記事

- 原因 :
- ・ スプールファイルの印刷データ又はフォームオーバーレイパターンのデータで、データ異常を検出した。
 - ・ エラーが発生しているOWS のディスプレイ装置とプリンタ装置のエミュレータレベルの設定に誤りがある。
 - ・ PRTOVL コマンドで連帳LBP に印刷可能範囲を超えるオーバーレイパターンを印刷した。

- 利用者処置 :
- ・ CTLWTR コマンドで印刷を再開するか、又はCANWTR コマンドで印刷を中止する。
 - ・ SIP メニューでOWS のエミュレータレベルの設定内容を確認する (『システム導入手引書』参照)。
 - ・ PRTOVL コマンドで連帳LBP に印刷を行う場合はFORM パラメタに@LP を指定する。

システム処置 : CTLWTR 及びCANWTR コマンドの投入を待つ。

- 注意 :
- ・ 補足情報の詳細を、以下に示す。
データ種別
CODE : 文字データ
GRPH : グラフデータ
IMAG : イメージデータ
FOVL : フォームオーバーレイパターンデータ
FCD : フォーム制御データ
エラーコード : ハードウェアから通知されたエラーコードである。
ページ位置 : データ種別がFOVL 以外の場合に表示され、エラーの発生したときに出力中のページ位置を示す (エラー発生ページ位置とは限らない)。
・ ワークステーション表示……………あり
・ ロギング先……………SYSLOG

新 記 事

- 原因：
- ・ スプールファイルの印刷データ又はフォームオーバーレイパターンのデータで、データ異常を検出した。
 - ・ エラーが発生しているOWS のディスプレイ装置とプリンタ装置のエミュレータレベルの設定に誤りがある。
 - ・ PRTOVL コマンドで連帳LBP に印刷可能範囲を超えるオーバーレイパターンを印刷した。
 - ・ Kシリーズ端末エミュレータ LBPサポート V7.2のPDFファイル出力機能 (L30追加機能) において、サポートされていない情報 (PDFソフトやPDFファイル名) が設定されている。
- 利用者処置：
- ・ CTLWTR コマンドで印刷を再開するか、又はCANWTR コマンドで印刷を中止する。
 - ・ SIP メニューでOWS のエミュレータレベルの設定内容を確認する (『システム導入手引書』参照)。
 - ・ PRTOVL コマンドで連帳LBP に印刷を行う場合はFORM パラメタに@LP を指定する。
 - ・ PDFファイル出力機能を使用する場合、以下を実施後、STRWTRコマンドで印刷を開始する。
 - － 「PDF出力モード」タブの「ファイル名フォーマット文字列」に設定されている禁止文字の削除
 - － 「プリンタ装置」タブの「接続機種」で「PDFファイル出力ソフト」を選択し、「プリンタ名」で「Microsoft Print to PDF」を選択
- システム処置： CTLWTR 及びCANWTR コマンドの投入を待つ。
- 注意：
- ・ 補足情報の詳細を、以下に示す。
- データ種別
- CODE：文字データ
- GRPH：グラフデータ、PDFファイル出力機能 (Kシリーズ端末エミュレータ LBPサポート V7.2)
- IMAG：イメージデータ
- FOVL：フォームオーバーレイパターンデータ
- FCD：フォーム制御データ
- エラーコード：ハードウェアから通知されたエラーコードである。
- ページ位置：データ種別がFOVL 以外の場合に表示され、エラーの発生したときに出力中のページ位置を示す (エラー発生ページ位置とは限らない)。
- ・ ワークステーション表示……………あり
 - ・ ロギング先……………SYSLOG

2020年12月22日発行

修正箇所 (章節項)：第2章 送信メッセージ S5057 補足情報一覧 エラーコード1049 表2.7 補足情報一覧

旧 記 事

エラーコード	詳細情報1	詳細情報2	詳細情報3	意味	利用者処置
1049	CIFS エラーコード	Windows ユーザ名	ドメイン名	NAS 装置へのユーザ認証で失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> ・Windows ユーザ名、パスワード、ドメイン名が適切であるか確認する。 ・NAS 装置とドメインサーバの時刻が一致しているか確認する。 ・詳細情報やログファイルの出力結果を元に調査する。

新 記 事

エラーコード	詳細情報1	詳細情報2	詳細情報3	意味	利用者処置
1049	CIFS エラーコード	Windows ユーザ名	ドメイン名	NAS 装置へのユーザ認証で失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> ・Windows ユーザ名、パスワード、ドメイン名が適切であるか確認する。 ・NAS 装置とドメインサーバ

					バの時刻が一致しているか確認する. ・詳細情報やログファイルの出力結果を元に調査する. ・同時に” S5057” の補足情報:1048 が表示されている場合は, その利用者処置に従う.
--	--	--	--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------

2020年6月30日発行

修正箇所 (章節項) : 第 2 章 送信メッセージ S5034 補足情報

旧 記事

S5034 MESSAGE FROM EXECPING
EXECPING からの通知メッセージ

補足情報: [詳細情報]

正常通知メッセージの場合: 次のいずれかのメッセージを通知する.

- ・ IP アドレス IS ALIVE
- ・ ホスト名 IS ALIVE

異常通知メッセージの場合: PING: [メッセージ]

発信元: 以下のうちのいずれか一つが表示される.

- ・ SC | JOB | ジョブ名, プロフィール名
- ・ SC | NSS | EXECPING

メッセージのレベル: A

原因: EXECPING からの通知メッセージである.

利用者処置: 異常通知メッセージが通知された場合は, メッセージにより原因を調査する.

正常通知メッセージの場合は, 処理を続行する.

システム処置: 正常通知メッセージの場合は, 処理を続行する.

異常通知メッセージの場合は, 処理を打ち切る.

注意: ・ワークステーション表示……………あり

・ロギング先……………SYSLOG

・メッセージ一覧を以下に示す.

新 記事

S5034 MESSAGE FROM EXECPING
EXECPING からの通知メッセージ

補足情報: [詳細情報]

正常通知メッセージの場合: 次のいずれかのメッセージを通知する.

- ・ IP アドレス IS ALIVE
- ・ ホスト名 IS ALIVE
- ・ DELETE RESULT FILE [削除した結果ファイル名]
- ・ OUTPUT FILE [出力した結果ファイル名]

異常通知メッセージの場合: PING: [メッセージ]

発信元: 以下のうちのいずれか一つが表示される.

- ・ SC | JOB | ジョブ名, プロフィール名
- ・ SC | NSS | EXECPING

メッセージのレベル: A

原因： EXECPING からの通知メッセージである。

利用者処置： 異常通知メッセージが通知された場合は、メッセージにより原因を調査する。

正常通知メッセージの場合は、処理を続行する。

システム処置：正常通知メッセージの場合は、処理を続行する。

異常通知メッセージの場合は、処理を打ち切る。

注意：

- ・ワークステーション表示……………あり
- ・ロギング先……………SYSLOG
- ・メッセージ一覧を以下に示す。

2020年6月30日発行

修正箇所(章節項)：付録A.1.1 メッセージ表示域 G xxxx

旧記事

表示コード	原因と利用者処置
G 2F02 *ISF*	原因： ディスクボリューム退避/復元機能を使用して「ASP-VMの停止 (POWER OFF)」をしたあとに表示される場合がある。 利用者処置： 異常ではないので対処は不要である。
G 2F42 *AGENT*	原因： ディスクボリューム退避/復元機能利用中に「メディアの割当て解除」をしたときに表示されることがある場合がある。 利用者処置： ディスクボリューム退避/復元機能を再起動する。
G 2F43	原因： ASP側で設定された自動運転の電源投入時刻になったため、ASP-VMの自動起動処理が実行された。しかし、同時刻にオフコンサービス提供側が、対象ASP-VMの契約変更に伴う環境変更設定作業を行っていたため、ASP-VMの起動に失敗した。 利用者処置： メッセージが表示されたことをサービス窓口連絡する。オフコンサービス提供側によるASP-VMの情報の更新作業が終わったあとに、あらためてASP-VMを手動操作で起動する。
前記以外	原因： ISF内の処理でエラーが検出された。なお、IMPL時だけでなく、ジョブ実行中にも表示されることがある。 利用者処置： 表示されているメッセージをメモし、サービス窓口または担当SEへ連絡する。

新記事

表示コード	原因と利用者処置
G 2F02 *ISF*	原因： ディスクボリューム退避/復元機能を使用して「ASP-VMの停止 (POWER OFF)」をしたあとに表示される場合がある。 利用者処置： 異常ではないので対処は不要である。
G 2F42 AGNT-XXXX XXXX：0000~FFFF	原因： ASP-VMの操作で異常が発生したときに表示される場合がある。 利用者処置： ディスクボリューム退避/復元機能利用中に「メディアの割当て解除」をしたときに表示された場合、ディスクボリューム退避/復元機能を再起動する。 それ以外の場合は、メッセージが表示されたことをサービス窓口連絡する。
G 2F43 *AGENT*	原因： 富士通が、対象ASP-VMの契約変更に伴う環境変更設定作業をしていたため、ASP-VMの起動に失敗した。 利用者処置： 富士通によるASP-VMの情報の更新作業が終わったあとに、あらためてASP-VMを起動する。
G 2F44 AGNT-0011	原因：

G 2F44 AGNT-0013	<p>富士通が、対象 ASP-VM のメンテナンスをしていたため、ASP-VM の起動に失敗した。</p> <p>利用者処置： 10 分程度待ってから、ASP-VM を手動操作で起動する。 それでもエラーになる場合、メッセージが表示されたことをサービス窓口へ連絡する。 富士通による ASP-VM の情報の更新作業が終わったあとに、あらためて ASP-VM を起動する。</p>
G 2F44 AGNT-0021	<p>原因： ASP 管理者が、対象 ASP-VM の環境変更設定作業（※）をしていたため、ASP-VM の起動に失敗した。</p> <p>※：ASP 管理者による環境変更設定作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象の ASP-VM の『ASP-VM の更新』操作 ・対象の ASP-VM の『カスタマイズ情報の登録』操作 ・対象の ASP-VM の『固有メディアの登録』操作 ・対象の ASP-VM の『固有メディアの削除』操作 ・対象の ASP-VM の『固有メディアの説明の変更』操作 ・対象の ASP-VM の『メディアの割当て』操作 ・対象の ASP-VM の『メディアの割当て解除』操作 ・対象の ASP-VM の『ボリュームの説明の変更』操作 <p>利用者処置： ASP 管理者による環境変更設定作業が終わったあとに、あらためて ASP-VM を起動する。</p>
前記以外	<p>原因： ISF 内の処理でエラーが検出された。なお、IMPL 時だけでなく、ジョブ実行中にも表示されることがある。</p> <p>利用者処置： 表示されているメッセージをメモし、サービス窓口または担当 SE へ連絡する。</p>

2019 年 7 月 30 日発行

修正箇所（章節項）：第 2 章 送信メッセージ 2.27 S7800～S7899 のメッセージ S7892 の利用者処置

旧記事

新記事追加

新記事

・ XALTTBCK ライブラリ

修正情報をシステムへ反映する際、修正する前のプログラムファイルを退避するライブラリの空き領域が少なくなってしまうため、メッセージが出力される。

修正情報のシステム反映および修正前の退避は正しく実施されており、対処は不要である。

2019 年 6 月 25 日発行

修正箇所（章節項）：付録 A.1.1 メッセージ表示域 G xxxx

旧記事

表示コード	原因と利用者処置
G 2F02 *ISF*	<p>原因： ディスクボリューム退避／復元機能を使用して「ASP-VM の停止（POWER OFF）」をしたあとに表示される場合がある。</p> <p>利用者処置： 異常ではないので対処は不要である。</p>

新 記 事

表示コード	原因と利用者処置
G 2F00 *ISF*	<p>原因： システム共通変数@XFRMD に@AUTO を指定した ASP-VM が、オフコンサービスの保守作業で強制停止された場合、システムの自動立ち上げができないため、表示される。</p> <p>利用者処置： 対処は不要である。</p>
G 2F02 *ISF*	<p>原因： ディスクボリューム退避／復元機能を使用して「ASP-VM の停止 (POWER OFF) 」をしたあとに表示される場合がある。</p> <p>利用者処置： 異常ではないので対処は不要である。</p>

以上